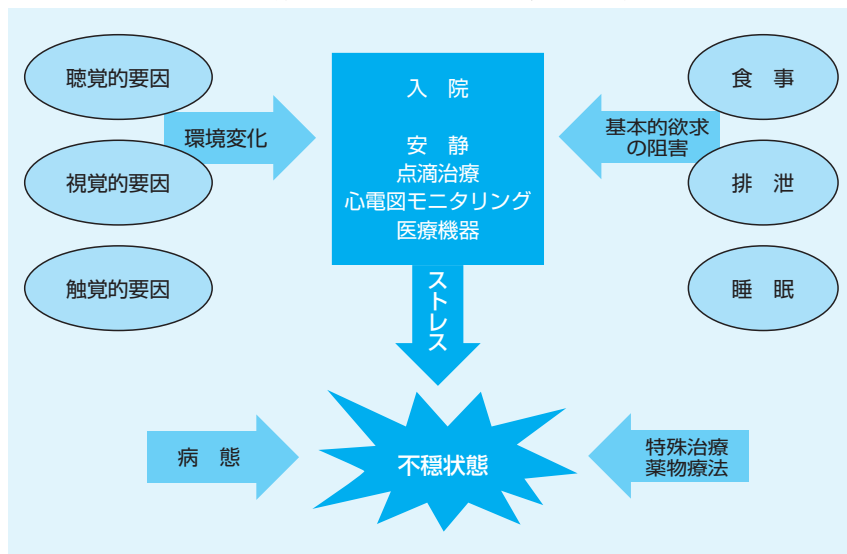


◆ 図 5-2 特殊な治療環境からみた不穏状態出現との関連



三浦稚郁子「月刊ナースデータ」⁴⁾ 一部改変して引用。

した心因反応の1つが「不穏」であり、その具体的な要因として、①患者の五感によって感じる環境の変化、②基本的欲求が阻害される治療環境、③病態や治療内容による医療行為などがあげられる（図5-2）。

(1) 五感を通じて知覚される環境の変化

① 視覚的要因

医師、看護師、見慣れない医療機器、ベット柵、病室環境など。

② 聴覚的要因

心電図モニター音、ME 機器音、警報音、輸液ポンプ作動音など。

③ 触覚的要因

心電図モニター装着、膀胱留置カテーテルによる不快感、テープ貼付、各種処置などによる疼痛、オベ着など。

(2) 基本的欲求が阻害される治療環境

禁飲食、環境変化による睡眠障害、排泄が自力で行えないなど、主に食事・睡眠・排泄が阻害されることによるストレス。

(3) 病態や特殊な治療内容

がん病巣の身体侵襲、各種検査に対する前処置や実際の検査、手術前処置や実際の手術、人工呼吸器の使用、抗がん剤など薬物療法の副作用によるストレス。